

2023年3月1日

2022年度聖路加国際大学大学院看護学研究科
修士論文

看護師との関わりの中で生じる
高次脳機能障害をもつ急性期脳損傷患者の言動の意味
—エスノグラフィーの観点からの解釈—

Meanings of the Words and Actions of Patients with Acute Brain Injury with
Cognitive Impairment During Interaction with Nurses: Interpretation from an
Ethnographic Perspective

21MN017

澤井 康治

要旨

【目的】

ケアを提供しようとする看護師と関わる中で生じる、高次脳機能障害をもつ急性期脳損傷患者の言動にどのような意味があるのかをエスノグラフィーの観点から解釈する。加えて、この解釈から看護実践への示唆を得る。

【方法】

研究デザインはエスノグラフィーの手法を用いた質的記述的研究。高次脳機能障害をもつ急性期脳損傷患者 2 名を対象に、患者と看護師との関わりに焦点を当てて参加観察を行い、データを収集した。シンボリック相互作用論を理論的前提にエスノグラフィーの観点から患者の言動を分析し、その言動の意味を解釈した。聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認を得た(承認番号：22-A019)。

【結果】

対象者は 2 名ともに注意障害が顕著であり、その症状により高次脳機能障害を持つ患者ならではの世界に集中する場合があると捉えられた。この場合、患者は周囲に注意を向けられず、看護師がケアを提供しようとしても無反応なことや受動的に応じる場面が見られた。しかし、排便や不快の除去といった基本的欲求が生じると周囲に注意を向け、そばにいた看護師に自ら自分の欲求を不可解に思えるような言動で伝えていた。看護師が患者の欲求に関連したケアを提供すると、患者は主体的にそのケアに協力していた。一方、看護師が患者の欲求に関連したケアを提供しないと患者は叫ぶ、怒鳴るといった言動を起こしていた。

【考察および結論】

看護師は、高次脳機能障害をもつ急性期脳損傷患者の様々な言動から患者に生じている基本的欲求を捉え、患者の主体的な行動を促しながらその欲求に関連したケアを提供する必要があると考えられた。このようなケアの提供は、患者の欲求を満たすだけでなく脳損傷の自然回復を促し、患者が主体的になることは高次脳機能障害のリハビリテーションという側面からも重要であると考えた。一方、看護師が患者の欲求に関連したケアを提供しない場合、高次脳機能障害を悪化させる恐れがあると考えられた。患者が、高次脳機能障害を持つ患者ならではの世界に集中している時に看護師がケアを提供する場合、看護師が一方的にケアを提供しようとするのではなく、患者が集中している世界を尊重することが重要である。つまり、患者の世界を遮らず、その世界に入れてもらうように患者の視界に入り、視線を合わせて、その世界の中でケアを提供しようとするのが重要であると示唆された。